

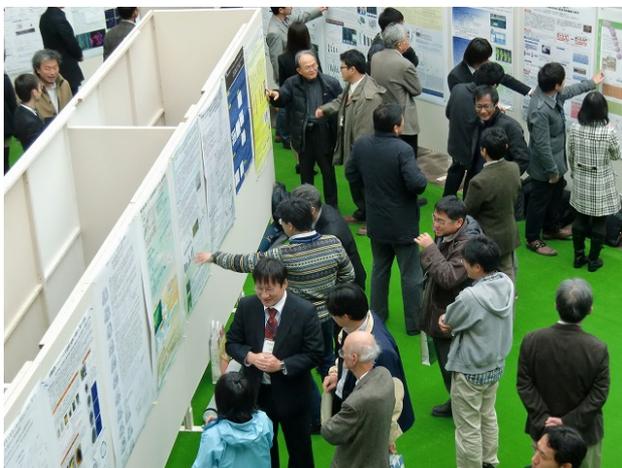
かんちけん倶楽部

— NEWS —

■ 共同研究発表会を開催しました

乾燥地研究センターは、文部科学省の共同利用・共同研究拠点です。毎年、全国の多くの研究者が、センターの充実した施設・設備、センターが培ってきた国内外のネットワークやユニークな植物資源を利用して、乾燥地科学の研究を行っています。この研究成果を発表するために、共同研究発表会を昨年12月1～2日に実施しました。北海道から九州まで、全国38の研究機関・大学・民間から140名の研究者がセンターに集まり、日頃は静かなセンターも、とてもにぎやかな二日間になりました。

初日は、最初に門村浩東京都立大学名誉教授による特別講演「地球変動時代の乾燥地研究一人間の安全保障と自然資源管理をめぐるいくつかの課題ーアフリカの場合を例に」が行われました。気候変動、食糧不足、国際水域問題、武力紛争などの現状について紹介され、聴衆は乾燥地における深刻で複雑な問題を改めて認識せざるを得ませんでした。次に、共同研究者を代表して、13件の口頭発表が行われました。「太陽光・風力発電により海水を灌漑水に変える研究」、「乾燥地で有望な燃料植物ジャトロファの遺伝子工学に関する研究」、「モンゴルの水資源環境の長期変動に関する研究」、「鉱山資源開発のため荒廃した乾燥地域の植生回復政策に関する研究」などが披露され熱心な討議がなされました。その後、軽食を取りながらの情報交換会では、さらなる討論が続けられ、研究者間のネットワークの強化が図られました。翌日は、アリド・ラボ中央の展示室においてポスター発表が行われました。40題のポスターの前で、発表と活発な質疑が行われました。最後に、本センターの共同利用施設・設備の整備状況が説明され、共同研究者からの要望が集められました。このように、寒空の下、二日にわたる発表会は、多くの研究者が集い熱気ある会合になりました。



ポスター発表の様子(2日目)。



口頭発表の様子(1日目)。

センターでは、毎年このように全国から多くの研究者に参集いただき、発表会を開催していますが、年々その参加者が増え、着実に「乾燥地科学研究者コミュニティ」が拡大しています。これは、地球環境変動や人口増に対して最も脆弱な地域である乾燥地についての科学が、今まで以上に重要な研究分野として認識されてきたこと、そして、乾燥地研究センターが名実共に共同利用・共同研究拠点になっていることの証しだと思っています。

■ 「一般公開」を開催しました

昨年12月15日(土)、「一般公開」を研究体験、シンポジウム、施設見学(自由見学)の3プログラム構成で実施し、高校生・大学生・社会人など多くの方々に参加していただきました。

研究体験では、辻本研究室の「遺伝子を光らせて見る」と黒崎助教の「宇宙から黄砂を観察」を行い、高校生を中心に参加いただきました。シンポジウムでは、総合地球環境学研究所(京都)の佐藤洋一郎博士から「よみがえるか緑のシルクロード」を講演いただきました。3~4千年前の砂漠化も人の営みに起因する面が大きかったとお話がありました。続いて当センターから「地球の気候はどのように変化してきたか(篠田教授)」、「エジプト農業事情/倍増する人口をどう養うか(藤巻准教授)」、「南アフリカの食糧生産/緑から青へ(坪准教授)」、「モンゴルの自然環境/野生動物との共存は可能か(伊藤助教)」を講演し、その後、全体ディスカッションを行いました。その結果、農業と環境の間の「衝突」にどう折り合いをつけるかが将来の課題と認識されました。

参加者からは、「外国の農業と環境の関係を知ることができた」、「黄砂の仕組みをもっと知りたい」等の感想が寄せられました。



辻本研究室による「遺伝子を光らせて見る」の参加者



黒崎助教による「宇宙から黄砂を観察」の参加者

乾地研のひと (新任者紹介)

〈プロジェクト研究員 趙 晟佑〉

私は韓国出身です。鳥取大学連合農学研究科で博士号を取りました。博士課程での研究はコムギ育種の遺伝資源として野生種を利用するプロジェクトに関するものでした。現在は乾燥地で重要な作物の染色体を改変して耐塩性や耐乾性を示すコムギ系統を作る仕事をしています。また、乾燥地で問題となっている土壤侵食を防ぐために、根茎を張りめぐらせる性質を野生種からコムギに取り込もうと試みています。毎日、植物の世話・交配、染色体観察やDNA マーカー開発に関する研究を行っています。



■ JICA 集団研修

JICA 集団研修「乾燥地における持続的農業のための土地・水資源の適正管理」で、アフリカ・中近東から来日した研修員 12 名が、11 月 5～6 日に乾燥地研究センターで研修を受けました。乾燥地で重要な水資源である地下水について、センターの湧水池「水神の泉」や地下水観測網、アリド・ラボの実験装置などによる研修が行われました。また、研修で得た知見を母国に還元する「アクション・プラン」について、JICA から出向中の鍋田准教授から説明がありました。



「水神の泉」で湧水・地下水の原理を学ぶ研修員たち

■ チュニジアに滞在しました 土壤保全分野 修士 2 年 岡崎正泰

若手研究者 ITP プログラム※を利用して、2010 年 10 月末から 3 か月間、2011 年 9 月下旬から 9 か月間、チュニジア南部のメドニン県にある乾燥地域研究所 (Institut des Régions Arides, IRA) に滞在し、研究所内の圃場で、大麦の灌漑計画作りのための栽培実験を行いました。メドニン近郊は降水量が少ないため、農家は井戸水を灌漑に用いて栽培を行っています。しかし、井戸水の塩濃度は高く、作物の収量増産の制限要因となっています。そこで土壌水分・塩分を適切に管理して栽培できる灌漑計画が必要となってきます。そのため私の実験では灌漑水量およびタイミングを変えて灌漑を行ったときに、土壌水分・塩分や植物の成長・収量に与える影響を調査しました。



研究所内にて。チュニジア人の友達が大麦を使った伝統料理「ショルバ」をご馳走してくれました。

このプログラムに参加したことで、実際に乾燥地の現場をこの目で見て、肌で感じて、栽培実験を行うことができました。このことは、今後の私の人生でとても大きな財産になると思います。私はこの春から教師として高校に赴任します。少しでも多くの生徒に自分の体験を話し、海外に興味をもった生徒を輩出したいと思います。

※若手研究者 ITP プログラムとは

「若手研究者国際・トレーニング・プログラム (ITP)」は、日本学術振興会の実施事業で、鳥取大学は平成 20 年度から 5 年間、「乾燥地における統合的資源管理のための人材育成」という課題で採択されました。毎年数名の修士課程学生が最長 1 年間、イタリア、チュニジア、シリア、中国等の研究機関に滞在し、多国籍教授陣による乾燥地に関する広範な内容の講義を受講し、乾燥地をフィールドとした研究を行うものです。詳細はホームページをご覧ください。

<http://rendai.muses.tottori-u.ac.jp/japanese/ITP/>

－ 活動報告 －

■ サイエンスカフェ@ALRC (2～3月)

研究する上で感じたこと、普段の生活や海外調査の様子について語り合い情報を共有するための場として、サイエンスカフェを開催しています。2～3月は、以下のようなテーマで行いました。

- 第15回 メキシコの乾燥地作物 テキーラ原料 リュウゼツラン 安藤孝之 (2013. 2. 13)
- 第16回 26分の1、チュニジア人生活 岡崎正泰 (修士2年) (2013. 2. 20)
- 第17回 青年海外協力隊体験記 (モロッコ) 高津光 (農学部・修士2年) (2013. 3. 13)

毎月第2、第4水曜日、17時半より開催しますので、ぜひご参加下さい。詳細ならびに今後の予定はホームページをご覧ください。

<https://sites.google.com/site/luehuaxueyanjiushi/saiensukafe-alrc>



第15回カフェでは、メキシコ料理と本場テキーラがふるまわれ、サイエンス・バーとなりました。

－ お知らせ －

☆ 乾燥地科学コミュニティメーリングリスト(arid-net)を開設しました

乾燥地科学分野に関する様々な情報交換を目的として、メーリングリスト(arid-net)を開設いたしました。投稿内容については、乾燥地科学に関する行事案内(学会、シンポジウム、研究集会、公開ゼミなど)、出版情報、文献紹介、乾燥地科学関係のウェブサイト紹介、教員・研究員などの公募情報などを想定しており、参加される皆様は乾燥地科学分野に関するタイムリーな情報を入手できると思います。乾燥地科学に関心のある方は是非ご参加ください。参加を希望される方は、以下のとおりメールをご送付願います。

- ・宛 先：arid-net-admin@alrc.tottori-u.ac.jp
- ・タイトル：乾燥地科学コミュニティメーリングリストへの参加希望
- ・本文：参加者アドレス、氏名、所属を記入下さい。

詳細はホームページをご参照ください。

<http://www.alrc.tottori-u.ac.jp/news13/arid-net.pdf>

☆ 乾燥地学術標本展示室の休日公開

乾燥地研究センターでは、土・日・祝日の12～16時、「ミニ砂漠博物館」を公開しています。入場無料、予約不要ですので、この機会に是非ご覧ください。

【とっとり乾地研倶楽部の設立趣旨】

砂漠化防止や乾燥地農業について世界的に貢献している鳥取大学乾燥地研究センターは、世界の乾燥地研究ネットワークの中核として学術研究、人材育成に大きな役割を果たしており、地域にとっても世界に誇るべき知的財産です。

そこで、鳥取大学乾燥地研究センターの活動を地域で支え、その研究活動と研究成果を広く情報発信することを通じてこの地域の発展を図るために「とっとり乾地研倶楽部」を設立しました。

発行：とっとり乾地研倶楽部事務局
鳥取商工振興協会 〒680-0031 鳥取市本町3丁目201番地
TEL (0857) 26-6886 FAX (0857) 22-0155